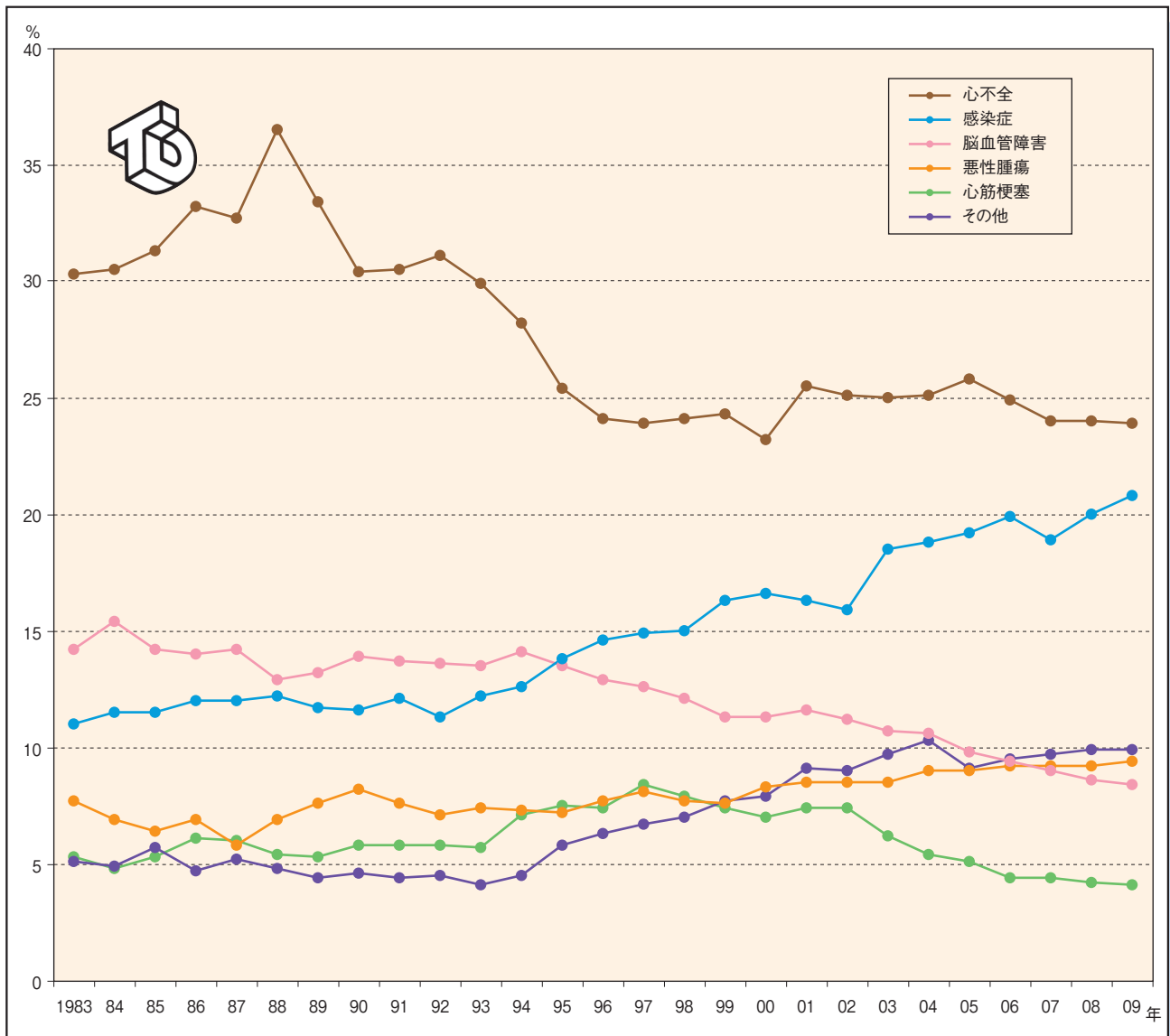


5) 死亡原因

(4) 年別死亡原因の推移 (図表19)



患者調査による集計

解説

死亡原因の第一位はあいかわらず心不全である。2009年の頻度は23.9%であり、1995年以降ほとんど安定した推移である。一方、感染症による死亡は1993年頃から上昇傾向となり、心不全死との差は縮まりつつある。脳血管障害は1994年以降漸減傾向が続いている。心筋梗塞死亡は1997年の8.4%をピークに最近では漸減傾向である。反面、悪性腫瘍死亡は漸増し、2009年では9.4%となった。